

鴨川と京都御苑

桐村 凌

(2021 年入学 鈴木ゼミ 5 期生)

鴨川や京都御苑などの自然。それが私の好きな京都である。この2箇所は小学生の頃の遊び場であった。中学高校時代は散歩、今はアルバイトへ行くのに京都御苑を、大学へは鴨川を通っており、幼い頃から常に私の身近にある。

小学校が京都御苑のそばだったこともあり、学校行事で何度も足を運び友達と遊んでいた。鴨川での遊び場は二条大橋と丸太町橋の間であった。生き物を捕まえ、向こう岸まで飛び石を渡る競争をするなど、どちらも思い出が詰まっている場所である。中学生、高校生の頃は遊ぶことは無くなったが、友達と鴨川を喋りながらよく歩いたりした。大学生になった今でも、少し遠回りをして鴨川を歩いたり、京都御苑の中を散歩している。



また、京都市の南北を流れる約 23km の鴨川は、四季を色濃く映し出してくれる。春に咲く鴨川沿いの桜は綺麗で、緑と太陽が反射した水面と蝉の鳴き声が夏を感じさせる。

秋は西日が赤く水面に映り、まとまりのある景色となる。冬は寒さの中で水鳥の姿を楽しむ。京都御苑では2月に梅が咲き、桜も鴨川に負けず美しい。秋にはもみじと銀杏が赤と黄色に色付く、対比的に冬は寒々しい暗さを感じる。



生き物が多く生息し、鴨川はアオサギやカモ、トビなどの約 60 種もの野鳥を見ることができる。出町柳の辺りで青い色は何気なく目に入り、その瞬間にカワセミの飛び立つ姿をみた。鴨川には、ホトケドジョウやカネヒラなどの希少種も多く、特に有名なのはオオサンショウウオである。私も一度だけ、大雨の次の日にみそそぎ川で 60cm 程の

オオサンショウウオがじっとしている姿を見たことがある。田舎でしか見られない自然が、身近にあることも魅力の一つだ。

歴史や食、景観など京都の好きなところは多々ある。至る所で世界遺産を目にすることも出来、食べ物も美味しい。京都について考える時、誰もが寺社仏閣や食べ物、京都の様々な文化に着目するであろう。しかし、京都の本質は懐かしさを感じるところにある。寺社仏閣は長い歴史を持っている。しかし、自分の人生とその歴史を比べた時にあまりに差が大きく、何百年と言われても懐かしさを感じることはない。だからこそ、賑わいある街を一步でた所にある京都御苑や鴨川にこそ京都の良さがある。そしてこのことは、私に限った話ではなく、京都に訪れた方もこの懐かしさに触れることができる。そんな懐かしい雰囲気が「京都」であり、一番私の好きなところである。